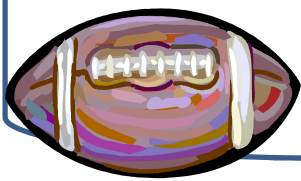


卒業生に学ぶ～坂井克行さん



(7人制ラグビー日本代表主将)



12月18日(木) 13:00から、本校卒業生である坂井克行さんをお迎えして、「夢の実現」をテーマにした講演会を開催します。

ぜひ、ご来校ください！

プロフィール

本校卒業後、県立四日市農芸高校に進学し、ラグビーを始める。

早稲田大学スポーツ科学部4年生の時に7人制ラグビー日本代表に選ばれる。

現在、豊田自動織機に勤務する。

躍進を続ける7人制ラグビー日本代表の主将を務める。いつもからだを張る。チームメイトからの信頼は絶大である。

先のワールドシリーズの東京セブンズでは格上のサモアを倒し、11位タイと健闘した。アルゼンチンと引き分け、ケニア、ウェールズには惜敗した。

「チーム力が上がっているとの実感があります。負けた試合も接戦でした。トップクラスのチームと十分戦える自信をつかむことができました」

7人制ラグビーは2016年リオデジャネイロ五輪から正式競技になったことで、俄然、脚光を浴びるようになった。目標はもちろん、五輪メダル。その“五輪ロード”を見据えた場合、香港セブンズのワールドシリーズ・コア(中核)チーム昇格決定戦がとても大きなポイントとなる。

1位となってコアチームになれば、ワールドシリーズの全試合に出場できるからである。いわば『経験』を積むことができる。

「ことしの最大のターゲットです。そこで勝つためには、選手間のコミュニケーションというか、



“あ・うん”の呼吸、信頼感が大事だと思います」

7人制ラグビーは、15人制ラグビーに比べ選手数が少ない。マイクロバスの移動はもちろん、食事やコーヒブレイクなど、一緒に行動するケースが多くなる。チームワークはマストである。

「何をするにも一緒です。仲がいい。バスの中では音楽をがんがん流し、みんなで盛り上がりながら移動します」

三重県四日市市出身。中学までサッカー選手だったが、四日市農芸高校からラグビーを始めた。俊足でキックも得意。高校3年のとき、全国高校ラグビー大会（東大阪市・花園）の坂出工高戦（香川）にて1人で1試合60得点（6トライ、15ゴール）をマークした。

「当時の新聞記者には、“たぶん最多得点記録だよ”と言われました。もう人生で、そんなにたくさん得点することないですね」

早大時代、ビッグゲームの前夜のミーティングでは、決意の寄せ書きにはいつも、『全力』と書いていた。豊田自動織機に進んだ今も、この二文字をモットーとする。

「何事も全力でやる。一生懸命にからだを張る。とくに今年は結果を残さないといけない。香港でも優勝するしかありません」

愛称が「かっちゃん」。休日は「ガーデニング」をして静かに過ごす。自身の境遇に最善を尽くす25歳。全力タックル、全力ダッシュで、きょうもチームの先頭に立つ。

□□□ 学校アンケートへのご協力 ありがとうございます □□□

12月初旬に実施いたしました学校アンケートにつきまして、ご協力ありがとうございました。このアンケートは、学校自己評価を行い、本校の教育活動の改善と教育の質の向上を図ることを目的としています。

アンケートの集約と結果の概要がまとめ次第お知らせいたします。